

2026年3月19日
株式会社日本政策金融公庫**農業景況DIはプラス値維持、令和8年見通しはマイナス値に
～稲作や茶などで大幅なプラス値、見通しは業種間で差～**

<農業景況調査（令和8年1月調査）>

日本政策金融公庫農林水産事業は、融資先の担い手農業者を対象に「農業景況調査（令和8年1月調査）」を実施しました。

調査結果のポイントは以下のとおりです。

<農業景況DI（令和7年実績、令和8年見通し）>

- 令和7年の農業景況DI（29.0）は、令和6年実績から18.5ポイント上昇し、プラス値が継続しました。業種別では、稲作（北海道：77.5、都府県：81.9）、茶（81.0）などで大幅なプラス値となりました。
- 令和8年の農業景況DIの見通し（▲7.3）は、令和7年実績から36.3ポイント低下し、マイナス値に転じました。業種別では、茶（58.0）などで引き続きプラス値となった一方、稲作（北海道：▲29.2、都府県：▲20.8）、きのこ（▲24.5）などでマイナス値に転じました。

<販売単価DI・生産コストDI（令和7年実績）>

- 令和7年の販売単価DI（53.5）は令和6年実績から6.3ポイント上昇し、プラス値が継続しました。業種別では、稲作（北海道：88.6、都府県：94.8）、茶（83.0）、採卵鶏（90.8）などで大幅なプラス値となりました。
- 令和7年の生産コストDI（▲77.8）は、令和6年実績から1.6ポイント上昇したものの、依然として大幅なマイナス値が継続する結果となりました。業種別でも、全業種で大幅なマイナス値となりました。

<雇用状況DI（令和7年実績）>

- 令和7年の雇用状況DI（▲35.9）は、令和6年実績から1.5ポイント上昇したものの、依然としてマイナス値が継続する結果となりました。

<設備投資予定>

- 令和8年に「設備投資予定あり」とする比率（57.1%）は、令和7年から5.1ポイント上昇しました。耕種では稲作（都府県：73.9%）、畜産では養豚（54.8%）が最も高くなりました。

注：DI（Diffusion Index＝動向指数）とは、前年と比較して「良くなった」とする回答の割合から、「悪くなった」とする回答の割合を差し引いた値で、上向き、下向きといった方向感を捉える指標。

■詳細は、添付のレポートをご参照ください。

農業景況調査（令和8年1月）

～農業の景況について～

○調査概要

- 調査時期：令和8年1月
- 調査方法：往復はがきによる郵送アンケート及びインターネット併用調査
- 調査対象：スーパーL資金又は農業改良資金等のご融資先のうち20,271先
- 有効回答数：6,606先（回収率32.6%）

（内訳）

稲作（北海道）：656、稲作（都府県）：1,711、畑作：643、露地野菜：681、
施設野菜：602、茶：100、果樹：371、施設花き：167、きのこ：53、
酪農（北海道）：262、酪農（都府県）：223、肉用牛：425、養豚：177、
採卵鶏：120、ブロイラー：85、その他：330

<お問い合わせ先>

日本政策金融公庫 農林水産事業本部 情報企画部（担当：大王、垣尾）TEL：03-3270-5585
〒100-0004 東京都千代田区大手町1-9-4 大手町フィナンシャルシティ ノースタワー

農業の景況(景況DI、収支DI)

- ・令和7年の農業景況DI (10.5→29.0)は令和6年実績から18.5ポイント上昇し、プラス値が継続した。業種別では、稲作(北海道:64.8→77.5、都府県:50.8→81.9)、茶(▲3.0→81.0)などで大幅なプラス値となった。
- ・令和8年見通し(29.0→▲7.3)は令和7年実績から36.3ポイント低下し、マイナス値に転じた。業種別では、茶(58.0)などで引き続きプラス値となった一方、稲作(北海道:77.5→▲29.2、都府県:81.9→▲20.8)、きのこ(9.4→▲24.5)などでマイナス値に転じた。
- ・令和7年の収支DI(7.5→24.9)は令和6年実績から17.4ポイント上昇し、プラス値が継続した。

1. 景況DI

	H27年	H28年	H29年	H30年	R1年	R2年	R3年	R4年	R5年	R6年	R7年	R8年 見通し
農業全体	16.8	20.0	21.2	▲11.1	6.0	▲24.9	▲29.6	▲39.1	▲26.9	10.5	29.0	▲7.3
稲作(北海道)	20.1	▲4.9	39.7	▲51.8	26.5	▲3.6	▲55.2	▲44.3	▲49.3	64.8	77.5	▲29.2
稲作(都府県)	▲3.8	23.6	10.3	▲10.7	11.4	▲33.4	▲55.9	▲39.5	▲22.1	50.8	81.9	▲20.8
畑作	35.2	▲17.6	34.8	▲22.7	31.6	▲32.3	0.2	▲31.8	▲49.2	▲29.0	▲34.8	▲23.8
露地野菜	14.3	14.7	7.5	▲3.4	▲9.3	▲32.8	▲21.4	▲15.5	▲17.5	7.3	▲3.1	5.0
施設野菜	20.3	26.3	15.0	▲1.4	▲22.4	▲28.1	▲32.3	▲28.8	▲11.7	5.1	▲1.7	5.1
茶	▲53.1	11.1	26.5	▲14.5	▲53.1	▲78.0	▲0.9	▲15.5	▲31.2	▲3.0	81.0	58.0
果樹	11.5	25.6	21.8	20.6	7.5	▲16.8	11.9	▲7.7	▲2.7	▲4.1	3.5	21.7
施設花き	▲5.9	11.8	▲10.6	▲13.7	▲20.2	▲40.2	5.8	▲3.2	▲19.5	▲36.5	▲35.9	▲11.3
きのこ	15.2	1.1	▲2.5	▲21.0	▲23.2	3.0	▲40.8	▲59.8	▲7.7	4.8	9.4	▲24.5
酪農(北海道)	55.9	57.6	44.8	25.0	30.3	▲19.3	▲32.8	▲87.7	▲56.8	▲28.2	14.1	6.5
酪農(都府県)	29.3	52.2	12.6	2.5	8.4	▲16.4	▲39.5	▲84.8	▲45.7	▲29.7	21.6	7.2
肉用牛	48.5	50.3	17.5	4.7	▲0.2	▲43.9	▲3.1	▲62.0	▲52.1	▲37.7	4.2	▲12.6
養豚	48.8	26.2	59.4	▲27.2	▲4.1	44.3	▲36.4	▲74.2	▲31.7	4.7	10.2	9.6
採卵鶏	71.0	40.8	32.7	▲61.2	▲38.9	▲43.8	22.6	▲65.4	65.1	▲41.2	58.8	5.1
ブロイラー	51.9	27.4	55.3	15.9	14.7	6.4	▲2.1	▲41.1	▲14.7	▲28.7	2.3	11.9

※景況DIは農業経営が「良くなった・良くなる」とする構成比(%)から「悪くなった・悪くなる」とする構成比(%)を差し引いたもの

2. 収支DI

	H27年	H28年	H29年	H30年	R1年	R2年	R3年	R4年	R5年	R6年	R7年
農業全体	14.2	16.7	14.7	▲20.1	▲1.5	▲27.6	▲35.1	▲43.1	▲32.1	7.5	24.9
稲作(北海道)	21.3	▲13.7	43.0	▲63.3	17.9	▲1.8	▲57.6	▲50.3	▲51.0	66.7	75.9
稲作(都府県)	▲6.5	23.8	2.2	▲18.8	4.5	▲38.5	▲60.5	▲43.5	▲29.1	50.1	80.2
畑作	33.9	▲24.7	28.1	▲27.5	29.0	▲37.4	▲3.0	▲36.5	▲54.3	▲34.0	▲42.9
露地野菜	5.7	13.1	▲0.9	▲14.8	▲18.4	▲36.9	▲27.3	▲19.8	▲24.9	0.2	▲9.9
施設野菜	15.3	20.3	5.6	▲11.8	▲27.2	▲29.2	▲39.3	▲34.6	▲17.4	▲3.4	▲5.6
茶	▲52.4	8.1	25.8	▲16.1	▲54.0	▲76.3	▲5.4	▲22.1	▲40.7	▲2.9	75.0
果樹	6.3	19.3	12.0	7.4	▲4.9	▲25.3	4.9	▲13.2	▲13.8	▲9.1	▲6.0
施設花き	▲8.1	9.1	▲24.6	▲22.0	▲22.3	▲38.2	7.3	▲11.2	▲25.2	▲41.4	▲35.9
きのこ	11.4	▲1.0	▲3.8	▲24.7	▲30.5	4.4	▲46.3	▲57.3	▲3.8	3.2	7.5
酪農(北海道)	55.5	57.0	36.8	7.4	17.6	▲24.3	▲45.9	▲86.3	▲58.6	▲33.8	11.9
酪農(都府県)	25.4	48.4	1.7	▲3.3	▲3.6	▲14.5	▲45.9	▲86.7	▲45.2	▲32.4	11.2
肉用牛	50.8	48.6	7.0	▲4.1	▲7.3	▲48.4	▲12.3	▲64.4	▲55.7	▲40.7	1.1
養豚	50.2	19.1	57.9	▲34.9	▲7.8	47.0	▲43.1	▲66.0	▲30.7	14.7	2.3
採卵鶏	63.0	44.8	31.9	▲62.8	▲46.0	▲40.6	14.7	▲68.3	58.5	▲46.3	65.3
ブロイラー	42.3	29.1	55.3	4.3	5.4	8.9	▲5.2	▲44.2	▲22.4	▲30.1	3.5

※収支DIは収支実績が「良くなった」とする構成比(%)から「悪くなった」とする構成比(%)を差し引いたもの

農業の景況(天気図)

調査様式
 農業経営の業況は
 1:良くなった 2:変わらない 3:悪くなった
 今年(令和8年)の通年見通しは
 1:良くなる 2:変わらない 3:悪くなる

(注1) DI(Diffusion Index = 動向指数)について
 DIは、前年と比較して、「良くなった」の
 構成比から「悪くなった」の構成比を
 差し引いたもの。
 (注2) DI値に2.5以上の差異がある場合は
 上向き又は下向き矢印。2.4以内の場合は
 平行矢印。

(凡例)

業種	令和6年 実績	令和7年 実績	令和8年 見通し	業種	令和6年 実績	令和7年 実績	令和8年 見通し
農業全体	10.5	29.0	▲ 7.3	施設花き	▲ 36.5	▲ 35.9	▲ 11.3
稲作(北海道)	64.8	77.5	▲ 29.2	きのこ	4.8	9.4	▲ 24.5
稲作(都府県)	50.8	81.9	▲ 20.8	酪農(北海道)	▲ 28.2	14.1	6.5
畑作	▲ 29.0	▲ 34.8	▲ 23.8	酪農(都府県)	▲ 29.7	21.6	7.2
露地野菜	7.3	▲ 3.1	5.0	肉用牛	▲ 37.7	4.2	▲ 12.6
施設野菜	5.1	▲ 1.7	5.1	養豚	4.7	10.2	9.6
茶	▲ 3.0	81.0	58.0	採卵鶏	▲ 41.2	58.8	5.1
果樹	▲ 4.1	3.5	21.7	ブロイラー	▲ 28.7	2.3	11.9

農業の景況(販売単価DI、生産コストDI)

- ・令和7年の販売単価DI(47.2→53.5)は令和6年実績から6.3ポイント上昇し、プラス値が継続した。業種別では稲作(北海道:85.9→88.6、都府県:89.1→94.8)、茶(6.9→83.0)、酪農(北海道:16.6→63.7、都府県:14.2→75.6)、採卵鶏(▲7.6→90.8)などで大幅なプラス値となった。また、肉用牛(▲33.1→24.9)、ブロイラー(▲2.8→31.8)もプラス値に転換した。
- ・令和7年の生産コストDI(▲79.4→▲77.8)は令和6年実績から1.6ポイント上昇したものの、大幅なマイナス値が継続。業種別でも、全業種で大幅なマイナス値となった。

3. 販売単価DI

	H27年	H28年	H29年	H30年	R1年	R2年	R3年	R4年	R5年	R6年	R7年
農業全体	13.1	26.1	24.3	2.1	▲ 6.9	▲ 42.2	▲ 42.6	▲ 6.4	10.6	47.2	53.5
稲作(北海道)	10.1	19.9	54.4	▲ 5.9	▲ 2.4	▲ 48.3	▲ 83.5	▲ 15.7	16.4	85.9	88.6
稲作(都府県)	7.0	33.4	36.0	16.9	13.4	▲ 64.9	▲ 83.9	▲ 6.5	23.1	89.1	94.8
畑作	▲ 15.4	▲ 3.5	▲ 2.1	▲ 1.9	▲ 8.6	▲ 57.5	▲ 15.5	▲ 11.2	▲ 22.8	▲ 1.1	▲ 6.3
露地野菜	▲ 10.0	16.5	▲ 7.8	0.8	▲ 43.1	▲ 42.2	▲ 29.4	▲ 8.5	8.7	41.5	29.9
施設野菜	▲ 0.6	26.0	8.7	▲ 11.6	▲ 31.2	▲ 34.4	▲ 43.1	▲ 5.9	8.3	51.5	30.6
茶	▲ 59.4	▲ 1.3	18.1	▲ 41.1	▲ 63.5	▲ 78.0	▲ 5.3	▲ 16.4	▲ 23.0	6.9	83.0
果樹	10.9	34.9	28.0	15.0	15.7	3.1	16.5	11.4	30.1	55.6	31.0
施設花き	▲ 15.4	7.3	▲ 28.6	▲ 23.3	▲ 25.3	▲ 48.0	15.2	34.6	20.7	35.4	▲ 3.6
きのこ	▲ 6.4	▲ 18.2	▲ 11.3	▲ 39.6	▲ 46.4	▲ 4.5	▲ 55.6	0.0	38.4	60.3	39.6
酪農(北海道)	85.9	79.3	67.8	47.6	33.0	▲ 37.8	▲ 53.2	▲ 62.7	12.4	16.6	63.7
酪農(都府県)	61.7	50.7	14.4	17.6	34.2	▲ 23.7	▲ 36.5	2.9	40.3	14.2	75.6
肉用牛	85.8	76.4	17.1	20.4	▲ 21.5	▲ 62.6	▲ 4.3	▲ 45.1	▲ 52.9	▲ 33.1	24.9
養豚	26.9	▲ 15.1	63.6	▲ 55.0	▲ 24.5	52.8	▲ 21.8	36.9	19.2	62.7	36.2
採卵鶏	74.0	▲ 12.0	1.7	▲ 66.7	▲ 53.2	▲ 57.5	32.0	83.9	83.6	▲ 7.6	90.8
ブロイラー	28.8	▲ 9.7	37.5	▲ 11.6	▲ 28.3	5.1	▲ 1.0	15.8	10.5	▲ 2.8	31.8

※販売単価DIは生産物の販売価格が「上昇した」とする構成比(%)から「下落した」とする構成比(%)を差し引いたもの

4. 生産コストDI

	H27年	H28年	H29年	H30年	R1年	R2年	R3年	R4年	R5年	R6年	R7年
農業全体	▲ 44.7	▲ 19.1	▲ 25.2	▲ 37.1	▲ 38.8	▲ 36.2	▲ 68.1	▲ 88.3	▲ 84.6	▲ 79.4	▲ 77.8
稲作(北海道)	▲ 44.1	▲ 24.2	▲ 18.8	▲ 36.9	▲ 40.4	▲ 33.7	▲ 67.5	▲ 89.6	▲ 90.6	▲ 79.0	▲ 82.0
稲作(都府県)	▲ 36.5	▲ 11.5	▲ 11.2	▲ 18.2	▲ 19.3	▲ 30.8	▲ 56.3	▲ 82.7	▲ 80.3	▲ 72.9	▲ 70.8
畑作	▲ 63.7	▲ 32.6	▲ 28.4	▲ 38.5	▲ 45.6	▲ 41.5	▲ 63.2	▲ 88.5	▲ 90.5	▲ 85.9	▲ 86.2
露地野菜	▲ 56.8	▲ 28.9	▲ 40.0	▲ 46.3	▲ 53.1	▲ 44.7	▲ 67.9	▲ 90.2	▲ 85.9	▲ 87.0	▲ 84.8
施設野菜	▲ 41.0	▲ 26.5	▲ 39.9	▲ 49.0	▲ 57.6	▲ 46.0	▲ 78.9	▲ 88.7	▲ 85.2	▲ 86.9	▲ 86.7
茶	▲ 30.1	▲ 11.1	▲ 32.2	▲ 46.7	▲ 51.6	▲ 25.4	▲ 71.7	▲ 86.0	▲ 85.4	▲ 77.2	▲ 77.0
果樹	▲ 48.4	▲ 31.3	▲ 37.3	▲ 39.0	▲ 48.1	▲ 40.2	▲ 55.1	▲ 83.2	▲ 81.5	▲ 85.8	▲ 82.0
施設花き	▲ 33.5	▲ 21.9	▲ 48.6	▲ 53.5	▲ 55.7	▲ 40.2	▲ 87.0	▲ 93.1	▲ 91.2	▲ 95.6	▲ 92.2
きのこ	▲ 43.0	▲ 22.4	▲ 28.8	▲ 59.2	▲ 56.6	▲ 44.8	▲ 76.5	▲ 91.5	▲ 87.2	▲ 96.8	▲ 81.1
酪農(北海道)	▲ 46.4	▲ 4.9	▲ 35.2	▲ 48.2	▲ 37.1	▲ 45.4	▲ 81.0	▲ 95.1	▲ 88.5	▲ 85.4	▲ 75.2
酪農(都府県)	▲ 46.6	▲ 0.7	▲ 32.9	▲ 40.4	▲ 46.6	▲ 38.5	▲ 81.4	▲ 95.6	▲ 75.2	▲ 67.5	▲ 56.9
肉用牛	▲ 63.1	▲ 37.3	▲ 41.3	▲ 46.7	▲ 37.4	▲ 30.9	▲ 80.8	▲ 91.7	▲ 87.3	▲ 75.6	▲ 75.4
養豚	▲ 17.7	16.9	12.1	▲ 37.0	▲ 24.7	▲ 19.1	▲ 85.7	▲ 97.5	▲ 79.2	▲ 54.3	▲ 62.2
採卵鶏	▲ 32.0	11.2	▲ 12.0	▲ 49.6	▲ 46.9	▲ 41.7	▲ 83.4	▲ 93.5	▲ 83.7	▲ 74.8	▲ 77.3
ブロイラー	▲ 44.2	▲ 4.8	▲ 16.1	▲ 23.2	▲ 28.0	▲ 20.3	▲ 63.2	▲ 88.4	▲ 77.8	▲ 74.0	▲ 68.2

※生産コストDIは生産の費用(コスト)が「下がった」とする構成比(%)から「上がった(コスト増)」とする構成比(%)を差し引いたもの

農業の景況(資金繰りDI、雇用状況DI)

- 令和7年の資金繰りDI (▲0.7→17.6)は令和6年実績から18.3ポイント上昇し、プラス値に転じた。業種別では稲作(北海道:41.5→65.0、都府県:34.9→67.7)、茶(▲11.8→60.0)、採卵鶏(▲25.3→54.7)などで、大幅なプラス値となった。
- 令和8年見通し(17.6→▲12.1)は令和7年実績から29.7ポイント低下し、マイナス値に転じる見込み。
- 令和7年の雇用状況DI(▲37.4→▲35.9)は令和6年実績から1.5ポイント上昇したものの、マイナス値が継続。

5. 資金繰りDI

	H27年	H28年	H29年	H30年	R1年	R2年	R3年	R4年	R5年	R6年	R7年	R8年 見通し
農業全体	7.6	15.5	15.5	▲ 4.7	0.4	▲ 16.3	▲ 24.7	▲ 37.2	▲ 26.4	▲ 0.7	17.6	▲ 12.1
稲作(北海道)	8.2	▲ 2.5	23.8	▲ 30.4	7.9	▲ 1.5	▲ 40.4	▲ 40.4	▲ 38.4	41.5	65.0	▲ 12.8
稲作(都府県)	▲ 10.7	13.5	7.3	▲ 5.9	4.9	▲ 22.0	▲ 41.6	▲ 34.6	▲ 24.9	34.9	67.7	▲ 1.8
畑作	19.9	▲ 3.3	23.3	▲ 5.3	14.7	▲ 15.4	▲ 3.7	▲ 26.6	▲ 37.5	▲ 31.6	▲ 36.1	▲ 36.3
露地野菜	2.3	14.2	2.7	▲ 6.4	▲ 13.5	▲ 27.6	▲ 21.3	▲ 22.6	▲ 22.8	▲ 10.3	▲ 13.5	▲ 15.1
施設野菜	16.0	19.8	11.5	0.8	▲ 19.3	▲ 25.2	▲ 31.0	▲ 33.7	▲ 18.9	▲ 10.3	▲ 14.2	▲ 17.0
茶	▲ 41.3	4.3	20.2	▲ 8.0	▲ 40.5	▲ 48.3	▲ 5.3	▲ 27.8	▲ 23.9	▲ 11.8	60.0	47.0
果樹	1.4	14.7	8.6	8.9	2.0	▲ 11.8	4.2	▲ 13.5	▲ 10.8	▲ 14.7	▲ 8.6	▲ 7.6
施設花き	▲ 6.8	7.3	▲ 5.9	▲ 6.9	▲ 15.2	▲ 32.9	7.3	▲ 18.6	▲ 25.3	▲ 35.4	▲ 40.1	▲ 25.1
きのこ	10.1	1.0	7.5	▲ 24.7	▲ 29.0	▲ 6.0	▲ 24.7	▲ 64.6	▲ 20.5	▲ 1.6	▲ 5.7	▲ 26.4
酪農(北海道)	39.2	45.7	36.3	21.1	24.9	▲ 12.0	▲ 30.3	▲ 75.6	▲ 48.1	▲ 40.1	3.5	▲ 10.3
酪農(都府県)	26.5	42.1	16.4	5.4	1.6	▲ 6.7	▲ 41.9	▲ 80.6	▲ 42.2	▲ 34.8	3.6	▲ 8.1
肉用牛	27.8	34.6	16.9	8.7	0.7	▲ 25.6	▲ 8.4	▲ 55.4	▲ 43.9	▲ 37.4	▲ 13.2	▲ 29.9
養豚	45.0	32.4	55.6	▲ 7.1	2.3	37.7	▲ 24.5	▲ 61.4	▲ 28.5	2.3	▲ 2.9	▲ 6.2
採卵鶏	56.0	44.8	31.1	▲ 30.2	▲ 28.6	▲ 32.3	15.6	▲ 47.5	59.3	▲ 25.3	54.7	5.1
ブロイラー	38.5	29.1	50.0	27.6	17.4	5.0	1.1	▲ 30.5	▲ 15.8	▲ 30.2	▲ 7.1	▲ 4.7

※資金繰りDIは資金繰りが「楽になった」とする構成比(%)から「厳しくなった(苦しくなった)」とする構成比(%)を差し引いたもの

6. 雇用状況DI

	H27年	H28年	H29年	H30年	R1年	R2年	R3年	R4年	R5年	R6年	R7年
農業全体	▲ 26.3	▲ 33.6	▲ 36.8	▲ 34.7	▲ 34.9	▲ 32.0	▲ 35.6	▲ 37.0	▲ 37.6	▲ 37.4	▲ 35.9
稲作(北海道)	▲ 26.7	▲ 35.6	▲ 39.0	▲ 41.2	▲ 36.9	▲ 38.4	▲ 36.4	▲ 40.8	▲ 39.7	▲ 38.5	▲ 37.1
稲作(都府県)	▲ 18.8	▲ 27.3	▲ 27.8	▲ 27.6	▲ 29.5	▲ 28.4	▲ 29.7	▲ 36.0	▲ 37.5	▲ 41.8	▲ 39.9
畑作	▲ 33.6	▲ 40.8	▲ 45.0	▲ 40.9	▲ 42.7	▲ 37.5	▲ 41.2	▲ 41.4	▲ 40.9	▲ 38.9	▲ 34.8
露地野菜	▲ 34.9	▲ 41.5	▲ 43.4	▲ 36.7	▲ 38.2	▲ 36.2	▲ 39.0	▲ 36.8	▲ 35.5	▲ 35.9	▲ 33.6
施設野菜	▲ 24.1	▲ 30.8	▲ 33.0	▲ 30.9	▲ 30.1	▲ 24.9	▲ 34.6	▲ 29.8	▲ 33.4	▲ 28.6	▲ 26.6
茶	▲ 26.6	▲ 30.8	▲ 37.7	▲ 40.7	▲ 39.5	▲ 29.7	▲ 36.3	▲ 36.2	▲ 36.1	▲ 36.4	▲ 47.5
果樹	▲ 25.6	▲ 32.0	▲ 36.8	▲ 36.9	▲ 36.0	▲ 31.6	▲ 37.4	▲ 41.8	▲ 43.0	▲ 41.4	▲ 39.7
施設花き	▲ 26.8	▲ 31.6	▲ 34.4	▲ 31.8	▲ 29.9	▲ 26.7	▲ 41.0	▲ 31.4	▲ 28.9	▲ 22.2	▲ 25.9
きのこ	▲ 26.6	▲ 37.6	▲ 41.2	▲ 42.0	▲ 42.0	▲ 34.9	▲ 49.4	▲ 40.7	▲ 45.5	▲ 42.8	▲ 39.6
酪農(北海道)	▲ 40.4	▲ 45.0	▲ 52.5	▲ 44.1	▲ 38.7	▲ 31.9	▲ 42.1	▲ 39.8	▲ 38.5	▲ 42.9	▲ 39.7
酪農(都府県)	▲ 25.8	▲ 28.0	▲ 27.6	▲ 26.3	▲ 35.3	▲ 27.5	▲ 35.9	▲ 31.7	▲ 34.3	▲ 31.7	▲ 32.4
肉用牛	▲ 24.7	▲ 28.7	▲ 34.3	▲ 32.4	▲ 32.9	▲ 33.2	▲ 31.6	▲ 33.4	▲ 37.4	▲ 34.3	▲ 33.1
養豚	▲ 35.6	▲ 44.5	▲ 44.3	▲ 32.7	▲ 29.8	▲ 26.3	▲ 36.0	▲ 35.3	▲ 34.6	▲ 32.3	▲ 33.0
採卵鶏	▲ 31.0	▲ 43.2	▲ 47.4	▲ 41.1	▲ 38.9	▲ 33.3	▲ 41.8	▲ 47.6	▲ 42.3	▲ 43.2	▲ 38.6
ブロイラー	▲ 15.4	▲ 21.4	▲ 36.4	▲ 25.0	▲ 37.4	▲ 21.8	▲ 34.7	▲ 29.8	▲ 32.3	▲ 28.7	▲ 29.4

※雇用状況DIは雇用状況の実績が「過剰である」とする構成比(%)から「不足である」とする構成比(%)を差し引いたもの

農業の景況(設備投資ありの比率、設備投資額)

- ・令和8年に「設備投資予定あり」とする比率(52.0%→57.1%)は、令和7年から5.1ポイント上昇した。特に耕種では稲作(都府県:73.9%)、畜産では養豚(54.8%)が最も高くなった。
- ・肉用牛(37.3%)は4割以下と他業種に比べて低くなった。
- ・「設備投資予定あり」と回答した先のうち、47.2%が昨年に比べ設備投資額が「増加する」と回答している。

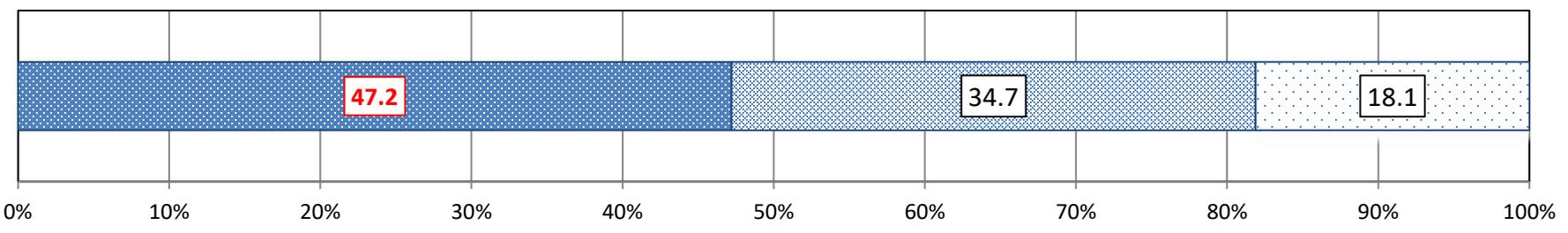
7. 設備投資予定ありの比率

【単位:%】

	H27年	H28年	H29年	H30年	R1年	R2年	R3年	R4年	R5年	R6年	R7年	R8年
農業全体	34.5	43.6	51.8	46.6	44.3	44.3	46.1	46.3	45.0	48.9	52.0	57.1
稲作(北海道)	26.1	44.1	48.6	45.2	41.0	43.2	42.3	41.1	44.0	46.8	57.5	65.8
稲作(都府県)	32.5	45.1	53.5	49.8	47.0	49.1	51.2	49.1	51.7	54.4	64.6	73.9
畑作	37.2	50.1	54.1	53.2	49.7	53.1	52.7	54.0	49.1	51.7	51.4	46.8
露地野菜	34.8	41.9	50.8	44.6	43.8	38.1	43.1	43.2	43.8	52.6	50.9	54.7
施設野菜	34.6	38.6	46.3	40.2	38.0	33.3	35.7	38.2	37.8	46.6	47.2	48.2
茶	30.3	28.2	45.7	40.5	40.7	31.2	35.1	36.6	40.5	40.6	46.0	69.0
果樹	31.7	38.2	45.5	33.5	35.2	34.2	42.4	49.0	49.5	51.5	47.2	49.9
施設花き	26.3	28.1	41.1	30.8	28.8	35.4	38.4	45.5	45.2	46.6	44.9	45.5
きのこ	36.6	44.9	47.3	43.2	51.9	36.8	50.7	56.8	43.2	51.9	55.6	68.6
酪農(北海道)	36.4	42.0	53.7	46.1	44.3	43.7	40.8	38.6	33.2	34.5	37.5	43.2
酪農(都府県)	42.8	38.3	58.0	49.4	48.4	42.2	45.1	44.6	32.3	41.8	42.9	51.4
肉用牛	41.1	49.9	56.8	46.2	45.1	48.5	42.0	48.6	40.4	37.9	33.0	37.3
養豚	55.9	54.4	62.1	58.0	45.5	50.2	54.0	51.2	45.6	56.9	56.7	54.8
採卵鶏	46.5	54.0	61.3	61.2	44.2	52.4	56.8	44.7	48.8	48.4	41.5	53.8
ブロイラー	47.8	55.8	59.7	51.8	55.1	58.7	49.4	49.0	34.7	38.9	45.8	50.0

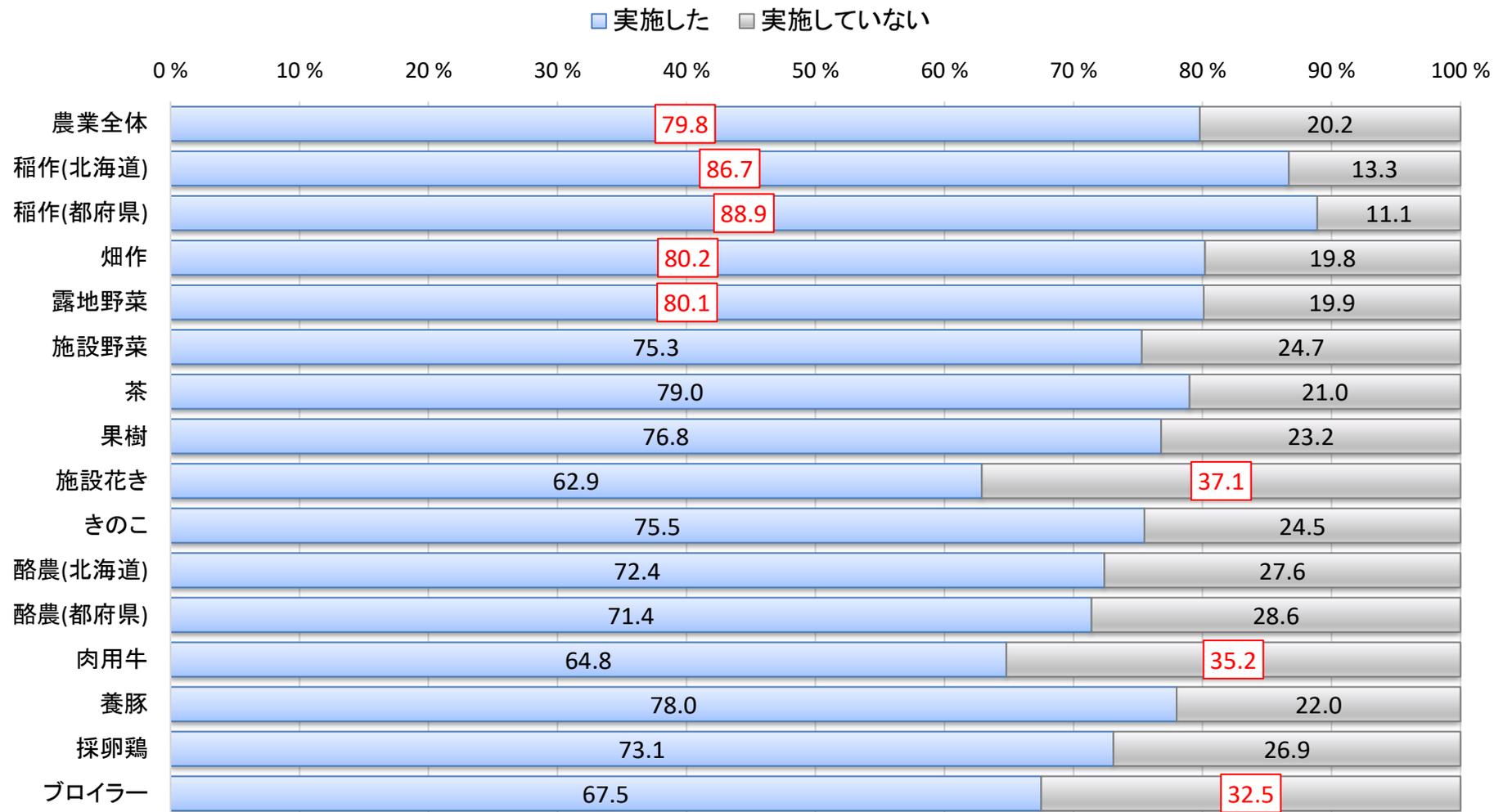
8. 昨年と比べた今年の設備投資額の見込み

■ 増加する ■ 同程度 □ 減少する



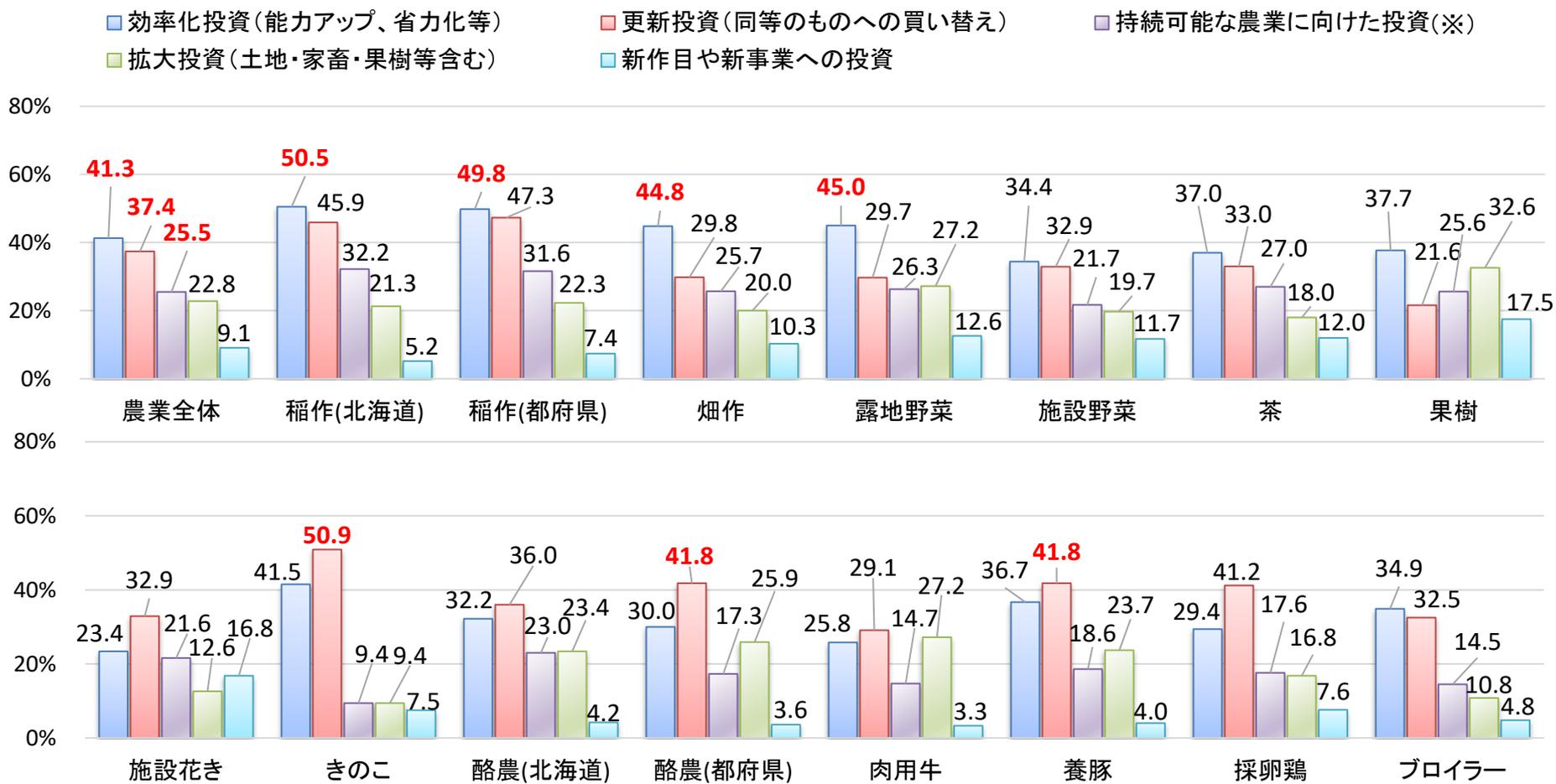
農業の景況(令和7年の設備投資実施状況)

- ・農業全体では「実施した」が79.8%と約8割を占めた。
- ・業種別では、稲作(北海道:86.7%、都府県:88.9%)、畑作(80.2%)、露地野菜(80.1%)で特に高く、8割超となった。
- ・「実施していない」は施設花き(37.1%)、肉用牛(35.2%)、ブロイラー(32.5%)で高くなった。



農業の景況(令和7年に実施した設備投資の種類)

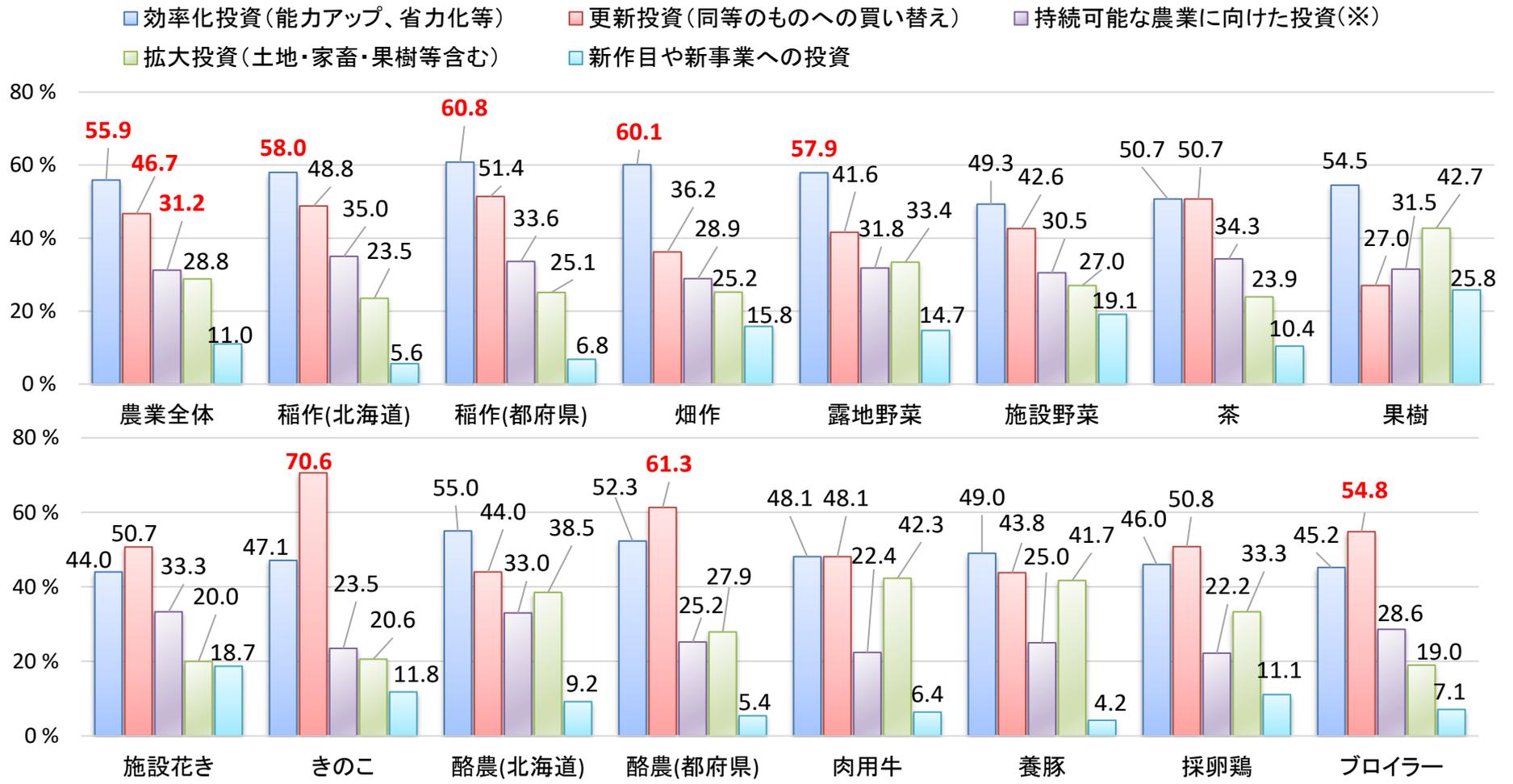
- ・農業全体では「効率化投資」(41.3%)が最も高く、次いで「更新投資」(37.4%)、「持続可能な農業に向けた投資」(25.5%)となった。
- ・業種別では、稲作(北海道:50.5%、都府県:49.8%)、露地野菜(45.0%)、畑作(44.8%)などで「効率化投資」の割合が最も高くなった。
- ・きのこ(50.9%)、酪農(都府県:41.8%)、養豚(41.8%)などでは「更新投資」の割合が最も高くなった。



※持続可能な農業に向けた投資:環境負荷の低減に係る取組みなど、農業の持続可能性を高めるための投資を想定したもの。

農業の景況(令和8年に実施する予定の設備投資の種類)

- ・農業全体では「効率化投資」(55.9%)が最も高く、次いで「更新投資」(46.7%)、「持続可能な農業に向けた投資」(31.2%)となった。
- ・業種別では、稲作(北海道:58.0%、都府県:60.8%)、畑作(60.1%)、露地野菜(57.9%)などで「効率化投資」の割合が最も高くなった。
- ・きのこ(70.6%)、酪農(都府県:61.3%)、ブロイラー(54.8%)などでは「更新投資」の割合が最も高くなった。



※持続可能な農業に向けた投資:環境負荷の低減に係る取組みなど、農業の持続可能性を高めるための投資を想定したもの。